

債券・為替 ウィークリーレポート



カナダ



ブラジル



メキシコ



オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー






南アフリカ



インドネシア



インド

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		1/10 （1/3との比較） 今後の見通し （※4）	1/10 （1/3との比較） 今後の見通し （※5）	前年比 （※3） 景気の方向性 （※6）	先週末 方向性 （※7）		
カナダ 	AAA	1.59% （+0.05）	83.87円 （+0.84%）	+1.7% 2019年3Q	1.75%	発表された住宅着工件数が市場予想を下回ったものの、国際商品貿易が市場予想を上回ったほか、雇用統計が前月比で改善する内容。中東情勢の緊張が緩和する中、国債利回りは上昇。カナダドルは対円で上昇。	景況感指数などが発表予定。イランでの航空機墜落事故でカナダ人犠牲者が多数出ており、今後のイランとの関係の推移にも注目される中、債券・為替市場はともに現在の水準をはさんで一進一退の展開が続くと予想。
	Aaa	→ 金利横ばい	→	→ 景気安定	→ 据え置き局面		
ブラジル 	BB-	5.66% （▲0.11）	26.72円 （+0.49%）	+1.2% 2019年3Q	4.50%	発表された鉱工業生産は市場予想を下回り、3カ月連続の前月比増加が止まる結果。景気回復についての先行き不透明感が台頭したものの、レアルは対円で上昇。国債利回りは低下。	小売売上高などが発表予定。基本的には景気回復基調が続いているとみられるものの、債券・為替市場ともに、経済指標に一喜一憂しながらもみ合う展開を予想。
	Ba2	→ 金利横ばい	→	→ 景気安定	↓ 利下げ局面		
メキシコ 	A-	6.79% （+0.06）	5.82円 （+1.87%）	-0.3% 2019年3Q	7.25%	発表されたCPI（消費者物価指数）が市場予想を上回った一方、鉱工業生産は市場予想を下回る内容。中東情勢緊迫化への懸念が薄れる中、メキシコペソは対円で上昇。国債利回りは上昇。	登録雇用創出合計などが発表予定。地政学リスクへの懸念が和らぎ、今後は15日に署名を控えた米中貿易協定の合意の内容などに注目が集まる中、債券・為替市場はともに一進一退の展開を予想。
	A3	↓ 金利低下	→	→ 景気安定	↓ 利下げ局面		

出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。

※2 国債利回りを表示（カナダ：10年、ブラジル：4年、メキシコ：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
















※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。

※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。

※政策金利については、カナダ：翌日物貸出金利、ブラジル：Selicレート、メキシコ：翌日物金利を表示。
















※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		1/10 （1/3との比較） 今後の見通し （※4）	1/10 （1/3との比較） 今後の見通し （※5）	前年比 （※3） 景気の方向性 （※6）	先週末 方向性 （※7）		
オーストラリア 	AAA	1.25% （+0.00）	75.54円 （+0.54%）	+1.7% 2019年3Q	0.75%	発表された住宅建設許可件数、貿易収支および小売売上高のいずれも市場予想を上回る内容。経済への悪影響が懸念される山火事への対策として、政府が財政支出を発表する中、豪ドルは対円で上昇。国債利回りは横ばい。	特に注目すべき経済指標の発表は無し。中国のGDP（国内総生産）の発表が予定されており、中国政府の景気刺激策の効果などに注目が集まる中、債券・為替市場はともに現在の水準を是と見て一進一退の展開が続くと予想。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 利下げ局面		
ニュージーランド 	AA+	1.48% （▲0.11）	72.59円 （+0.78%）	+2.3% 2019年3Q	1.00%	発表された住宅価格の上昇率は前月を上回った一方、商品価格は前月以上に前年比で悪化する内容。中東情勢緊迫化への懸念が薄れる中、ニュージーランドドルは対円で上昇。国債利回りは低下。	製造業PMI（購買担当者景気指数）などが発表予定。オーストラリアと同様、経済面での結び付きの強い中国のGDPの発表に注目が集まる中、債券・為替市場はともに現状水準での一進一退の展開が続くと予想。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 利下げ局面		
ノルウェー 	AAA	1.45% （+0.05）	12.32円 （+0.60%）	+1.3% 2019年3Q	1.50%	発表された鉱工業生産が前月を上回った一方、GDPの伸びは前月比で鈍化する結果。またCPIについては市場予想を下回る内容。中東情勢緊迫化への懸念が和らぐ中、国債利回りは上昇。ノルウェークローネは対円で上昇。	貿易収支や住宅価格指数などが発表予定。中銀のタカ派スタンスや、相対的に良好な経済環境が続くと予想されることなどから、ノルウェークローネは堅調な推移を予想。債券市場は一進一退の展開を予想。
	Aaa	 金利横ばい		 景気拡大	 据え置き局面		

出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

- ※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる本国通貨建て長期債格付を表示。
- ※2 10年国債利回りを表示。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。
- ※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
- ※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。
- ※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。
- ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。
- ※政策金利については、オーストラリア：キャッシュレート、ニュージーランド：オフィシャル・キャッシュレート、ノルウェー：デポジットレートを表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		1/10 （1/3との比較）	1/10 （1/3との比較）	前年比 （※3）	先週末		
		今後の見通し （※4）	今後の見通し （※5）	景気の方向性 （※6）	方向性 （※7）		
南アフリカ 	BB+	7.15% （▲0.10）	7.62円 （+0.78%）	+0.1% 2019年3Q	6.50%	発表されたPMIは市場予想を上回った一方、製造業生産は市場予想を下回る結果。国営電力会社エスコムの計画停電による景気悪化懸念も台頭したものの、ランドは対円で上昇。国債利回りは低下。	消費者信頼感や小売売上高、鉱物生産量などが発表予定。金融政策決定会合が予定されており、市場では金利据え置きが予想されている中、債券・為替市場はともに現在の水準をはさんで一進一退の展開を予想。
	Baa3	 金利横ばい		 景気停滞	 利下げ局面		
インドネシア 	BBB-	6.25% （▲0.16）	0.80円 （+2.51%）	+5.0% 2019年3Q	5.00%	発表された消費者信頼感指数は前月比で改善する内容。中東情勢緊迫化への懸念が和らぎ、市場がリスクオンの方角へ傾く中、インドネシアルピアは対円で上昇。国債利回りは低下。	貿易収支などが発表予定。地政学リスクへの懸念が薄れ、今後は国内の経済指標や米中貿易協議の進展などに注目が集まる展開が想定される中、債券・為替市場はともに現在の水準をはさんで一進一退の展開を予想。
	Baa2	 金利横ばい		 景気安定	 利下げ局面		
インド 	BBB-	6.63% （+0.27）	1.54円 （+2.66%）	+4.5% 2019年3Q	5.15%	発表された鉱工業生産は市場予想を上回る内容。中東情勢緊迫化への懸念後退や、原油価格下落などの材料をにらみながら、インドルピーは対円で上昇。国債利回りは上昇。	CPIや貿易収支などが発表予定。中東など海外の地政学リスクがやや落ち着きを見せ、国内の経済指標に注目が集まる展開が想定される中、債券・為替市場はともに現在の水準をはさんで一進一退の展開を予想。
	Baa2	 金利横ばい		 景気回復	 利下げ局面		

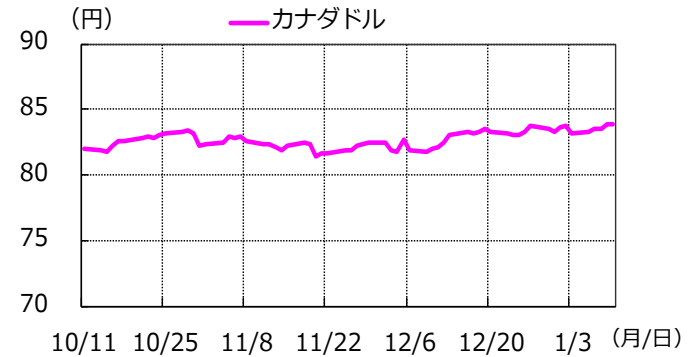
出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

- ※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる本国通貨建て長期債格付を表示。
- ※2 国債利回りを表示（南アフリカ：3年、インドネシア：5年、インド：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。
- ※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
- ※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。
- ※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。
- ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。
- ※政策金利については、南アフリカ：レポレート、インドネシア：7日物リバースレポ金利、インド：レポレートを表示。

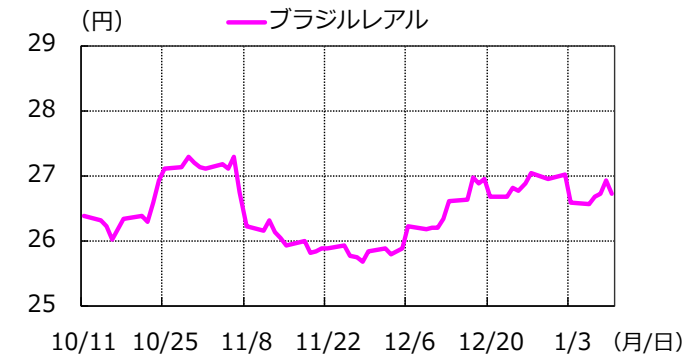
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2019/10/11~2020/1/10

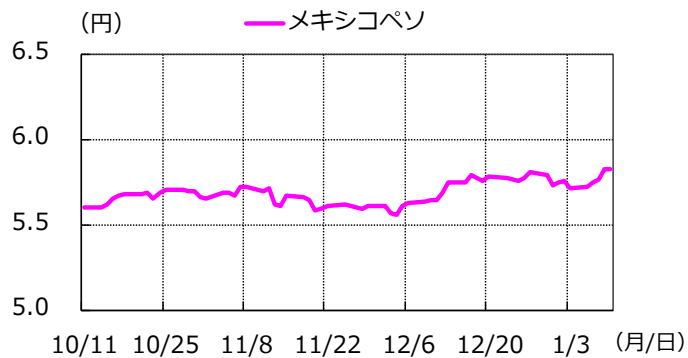
カナダ



ブラジル



メキシコ

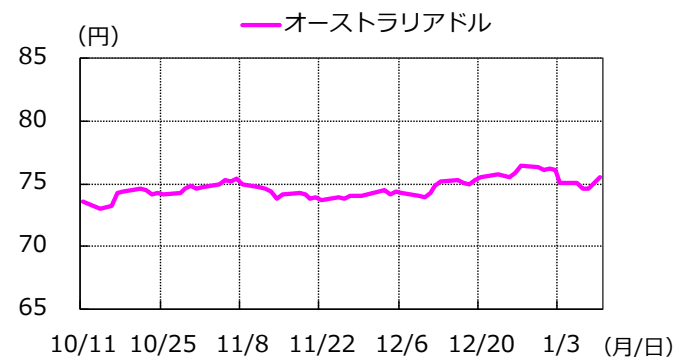
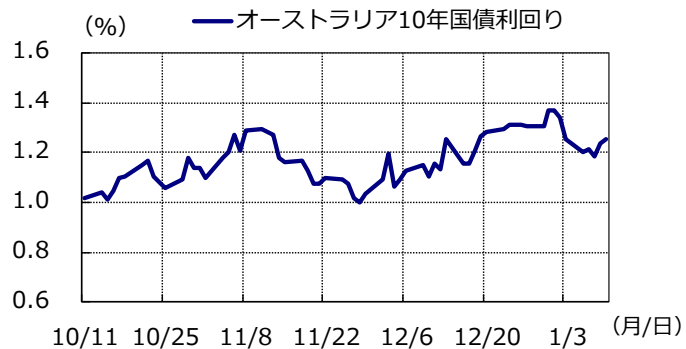


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

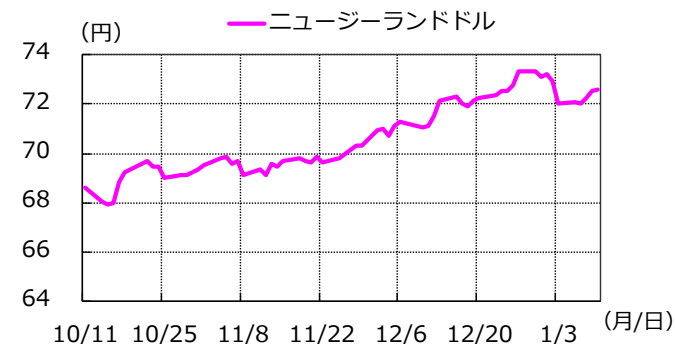
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2019/10/11~2020/1/10

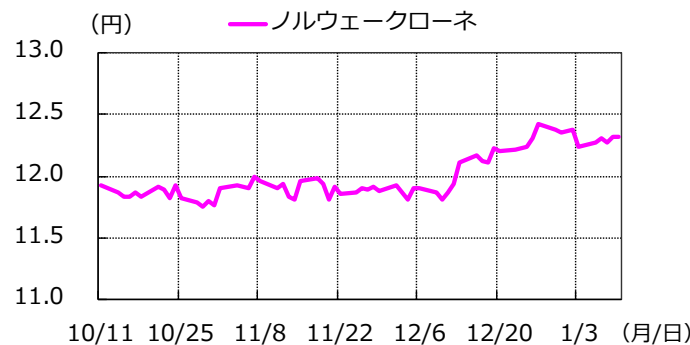
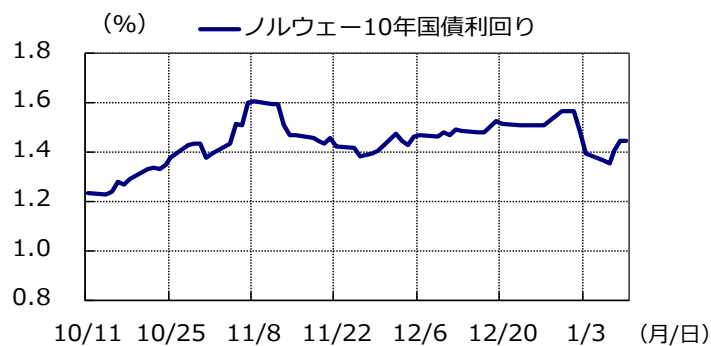
オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー

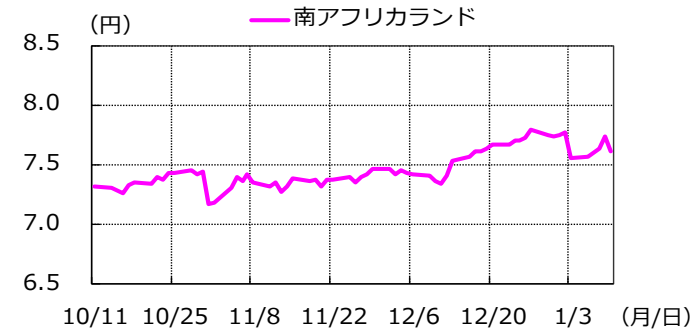
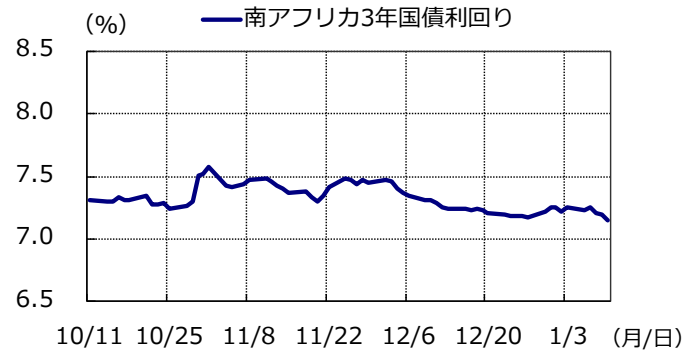


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

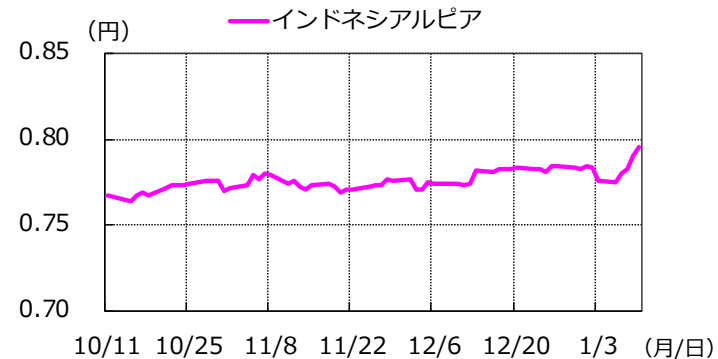
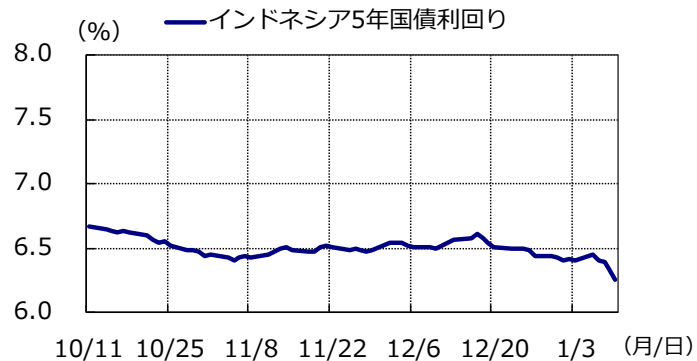
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2019/10/11~2020/1/10

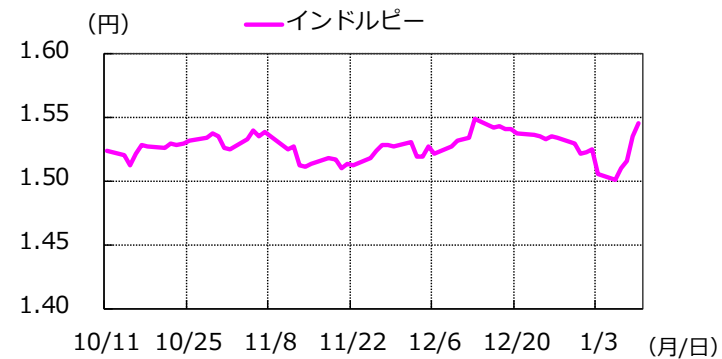
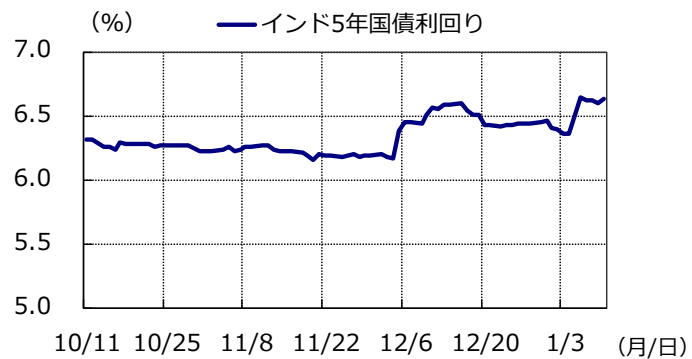
南アフリカ



インドネシア



インド



※インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。 ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

【投資信託に係るリスクと費用】

● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

● 投資信託に係る費用について

[ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。]

■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限3.85%（税込）

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合がありますため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限 年率2.09%（税込）

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

【ご注意事項】

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。

● 当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

● 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

● 投資信託は、

1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象ではありません。

2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。

3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。